

課題

- 春日井市が現状有しているマルチモーダル性(自動車以外の交通手段を選ぶことができる都市構造)を維持するためには公共交通の利便性維持・向上が不可欠であるが、「乗換に対する抵抗感」が公共交通利用を阻害している。
- 異なるモード間の移動について、有機的な連携や情報取得等は実施できていない。
- 2023年1月～かすがいシティバスのデジタルチケットをMaaSサイトにて販売しているが、目視認証であることから、運転士負担、利用者利便性に課題が残る。

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 事後決済QR乗車
 - ・QRコードを用いた乗降と乗降実績に応じた事後決済の仕組みを構築
→OD取得の精度、運転士・市職員の負担軽減効果等を検証する
チケットを都度事前購入する手間をなくし、利用者の利便性向上を目指す
- マルチモーダル利用促進
 - ・春日井市内のあらゆる交通モードの利用を割引条件とする
→各交通事業者への参画を打診し、MaaSアプリの利用範囲拡大を目指す

[モビリティ・データの取得と活用]

- かすがいシティバスODと他サービスを組み合わせた移動データの取得
- シティバスの路線再編や高機能で居心地のよい交通結節点(モビリティハブ)の整備・運営、モード横断的なモビリティ・マネジメント施策検討に活用

[地域交通政策等との連携]

- 公共交通計画への知見活用、他サービスと組み合わせたサブスクリプション設定等、「公共交通をよくする取り組み」を含めた利用促進策(モビリティ・マネジメント事業)において活用

効果

- モード横断的な移動実態の把握が可能となり、柔軟な券種設定や複数交通モードの組み合わせ等効果的なモビリティ・マネジメントの検討に活用できる。
- 公共交通を乗り換えて目的地に移動する利用者が増加し、公共交通利用促進が期待される。(シティバス→シティバス乗換: 現状 約400回/月→実証期間目標 約600回/月)

事業の新規性

- 鉄道・バス・デマンド交通・シェアカー・シェアサイクルという多様な交通モードが事業者の垣根を越えてMaaSアプリ「CentX」で連携し、従来把握できなかったモード横断的な移動実態の把握、行動変容効果の検証を実現する。
- 事後決済QRチケットにより、シングルライドで都度事前検索・購入する手間をなくすとともに、実績を基にした事後のバッチ処理により、モード横断的な乗車割引を実現する。

事業エリア/交通事業

事業エリア:愛知県春日井市(春日井駅周辺～市内主要エリア)

交通事業:[鉄道]JR東海、名古屋鉄道、[バス]かすがいシティバス、名鉄バス、[デマンド交通]北部オンデマンドバス、[シェアリングサービス]春日井市レンタサイクル、名鉄協商シェアサイクル「カリテコバイク」、名鉄協商カーシェア「カリテコ」、名鉄協商パーキング

MaaSアプリ等

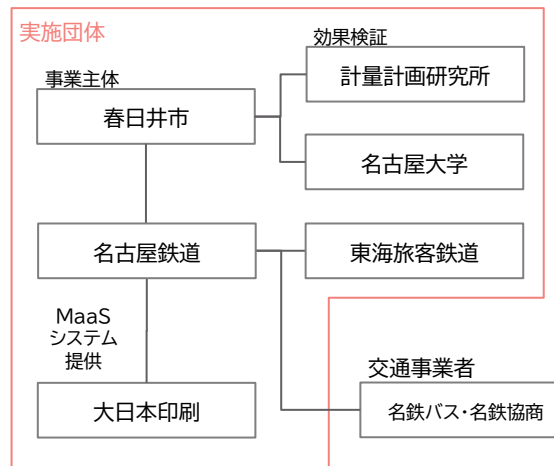
- MaaSアプリ:CentX
- 春日井市MaaSサイト:move!かすがい
- JR改札内タッチポイント:DNPモビリティポート

データの活用等

- データの取得方法:MaaSアプリ「CentX」から取得
(会員ID、チケット購入番号、認証日時、認証場所:交通モード | 緯度経度)
- データの活用方法:乗換データをTableauで可視化し、バス路線再編の検討に活用。

座組

スケジュール



4月:要件定義

5～1月:アプリ開発

10月頃～:実証実験(1次)

～2月頃:実証実験(2次)

3月:効果検証